No.134
2018
Autumn

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication

CONTENTS

八戸工業大学

p2−3　八戸工業大学学園祭／産学官包括連携協定／ IoT セミナー／アマモの研究／国際会議で大学院生発表／世界初、深海底でコンクリート試験開始

p4−5　卓球部全国大会へ／エコランへ挑戦／彩才祭／ソーラーカー／野球部、学チャレ進行中／科学の祭典／ミニオープンキャンパス実施／安藤昌益資料館ガイド英訳サポート／国際交流フェスタ参加／アジア原子力研修生来学／サークル紹介ドローン研究会

p6−7　階上町と連携協定／東北大災害科学国際研究所と協定締結／ EV 車水害事故対応プログラム開発／十勝沖地震シンポジウム開催／ SD 研修会／保護者懇談会／大学見学／研究事業寄付のお願い／進学相談会／入試日程／主な日程

p8−9　えがおキラキラ　ゆめいっぱい !!

八戸工業大学第一高等学校

p10−11　第60回体育祭／体験入学／全国高校総合体育大会／部活動体験見学会／命の授業／スマホ・ケータイ安全教室／ボランティア活動

八戸工業大学第二高等学校

p12−13　2018全国高総文化祭参加／テニス部・バドミントン部優勝／読書合宿からビブリオバトルへ／八戸工大ＳＳＰ／インターンシップ／鮫地区ボランティア／美術セミナー開催／商品開発／清掃活動

さくら幼稚園

p14−15　なかよしさい／卒園児からのメッセージ／ようちえんってこんなところ／とらんぽりん

八戸工業大学第二高等学校附属中学校

p16　科学の甲子園準優勝／第２回校外学習／附属中祭

p16　理事会

Mobile & iPhone & Android
◀◀◀モバイルサイトへアクセス

第46回八戸工業大学学園祭 工大祭「COLOR」～十人十色～

10月６日・７日、第46回工大祭が開催された。

それぞれのオリジナリティを発信しようというテーマの下、広い学内でのスタンプラリー、研究室公開、名物模擬店が軒を連ね、VR やドローン操縦、仮装大会などが賑わいを集めていた。一日目の野外ステージではサークル等のエネルギッシュな演奏が繰り広げられたが、二日目は台風による影響で屋外イベント開催場所の変更や、屋台村の中止など余儀なくされたのが、残念である。

地方創生に向けた「産学官包括連携協定」締結

７月24日、八戸市庁において、本学を含む八戸市高等教育連携機関（八戸学院大学、八戸学院大学短期大学部、八戸工業高等専門学校）と八戸市、八戸商工会議所は、地方創生に向けて包括的連携協定を結んだ。出生数や労働力の減少、若者の地元定着が進まないなど人口減少が進む中、それぞれの役割から地域の課題に適切に対応し、分野横断的に連携して地域の活性化と発展のための取り組みを進める。

総合政策推進の観点からも市の期待は大きく、人材育成、地域産業の活性化、防災・減災、都市整備、文化・スポーツの振興、環境・エネルギー、福祉・市民生活の向上など、連携分野は７分野にわたる。

（写真提供／デーリー東北新聞社）

IoTをひも解くセミナー開催

８月24日、第３回八戸工業大学 IoT セミナー～食品加工分野～が本学メディアセンターホールで開催された。IoT は「モノのインターネット」と呼ばれ、インターネットを通じて様々なモノ（センサー機器、建物、車、電子機器など）が接続され、相互に情報交換をする仕組みのことをいう。しかし実際のところ、言葉のイメージは分かるのだが、何をどうすれば IoT 機器を製作できるのだろうか。そこで、この分野の造詣が深く、学生とともに種々の IoT システムを作り上げている本学電気電子工学科の柴田幸司准教授（写真右）から、「IoT による事業効率化における留意点」と題して、具体的なシステム設計について丁寧な解説が行われた。地域企業の方からは、「まさに今、欲しい情報であった。」との声が聞かれた。後半は IoT 機器の活用方法についてグループディスカッションが行われ、様々な課題・提案について、活発な議論が交わされた。

CO_2削減と地球環境保全へ アマモの研究

北海道東部に位置する厚岸町が主催する「厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金」を受けて、北海道大学厚岸臨海実験所との共同研究を進めています。研究対象は、海中に草原を形成するアマモです。アマモとは海草（うみくさ）の一種であり、主に浅海域の砂泥地に生育する種子植物です。アマモ場は「海のゆりかご」とも呼ばれ、多くの海洋動植物の拠り所になっているだけでなく、栄養塩や海中に溶け込んだCO_2を取り込むなど、重要な役割を担っています。しかし、海岸の埋め立てなどの開発によって海草の生息域が減少傾向にあります。そのような状況の中、広大なアマモ場が広がっている厚岸湖・厚岸湾は、青森県の陸奥湾同様たいへん貴重な場所なのです。実際に私は厚岸町に６月末と９月中旬に行き、アマモ試料の採取や地点間移植などのフィールド調査を行いました。現在はアマモの部位毎の計測やそのデータの解析を行っています。今後もフィールド調査を続け、データを増やして生長量や形態の季節変化の傾向を確認し、炭素・窒素の含有量や安定同位体比の解析を進めていきます。今年度中に、この研究成果を英文学術雑誌に投稿することを目標にしており、何とかやり遂げられるよう頑張ります。

中村　　歩（生命環境科学科 田中研究室 ３年／八戸北高）

（写真右から２人目）

大学院生、ヨーロッパの国際会議で発表

７月、オーストリアのグラーツで開催されたICMPC15/ESCOM10（音楽知覚認知国際会議およびヨーロッパ音楽知覚認知会議合同会議）にて、本学大学院電子電気情報工学専攻２年山口翔也さん（写真左）は“An Emotional McGurk effect on motion and audio for piano performance: In the case of positive impression piece”（ピアノ演奏の音と動作における感情マガーク効果の検証：ポジティブ楽曲の場合）という題目で、また同専攻１年桶本まどかさん（写真中央）は「A Proficiency estimation system for violin performance（バイオリン演奏を対象とした熟達度推定システム）」の表題でそれぞれ研究報告を行った。

この学会では、研究概要による審査を通過して初めて研究報告が許可される。二人は、提出した研究概要の審査通過に加え、SEMPRE Conference Award（教育音楽知覚認知学会国際会議賞）という学生賞に選出され、さらにAwardからの補助金として130ユーロを授与された。

山口さんは昨年度国際会議でポスターセッションを行っているが、口頭発表は初めてとのこと。緊張しつつも丁寧に研究発表を行うことができ、達成感を感じたという。また桶本さんは、与えられた１時間の研究発表セッションから、様々な課題が浮き彫りになったと感想をのべ、次へのステップアップへ意気込みを見せていた。

（写真右は、指導教員のシステム情報工学科三浦雅展准教授）

世界初、「深海域におけるコンクリート経年劣化の試験」始まる

本学と海洋研究開発機構（JAMSTEC）、建設会社㈱不動テトラは、深海域でのコンクリートの耐性を調べるため、７月上旬に南海トラフの水深3,515mの深海域にコンクリート供試体（写真左）を設置し、コンクリートの経年劣化の評価研究をスタートさせた。共同研究を行う土木建築工学科の迫井裕樹准教授（写真右・中央）は「深海では、水圧、温度、海水成分、潮流など、コンクリートの物性に影響を及ぼすことが想定されるが、これまで、深海といった特殊環境が及ぼす影響に関する実測データや数理モデルがほとんど確認されていない。本試験は、基礎的検討として実施するものである。」と述べた。今後、５年経過まで、１年に１回供試体を引き上げ、力学的特性や化学成分について調査研究を行う予定で、将来の深海開発において、各種計測機器類の設置基盤としてコンクリートを用いることを想定した実験である。

本試験は2015年９月に本学とJAMSTECが包括連携協定を締結した下で行われる共同研究であり、このデータは本学学生の研究に活用される計画である。海洋開発に従事する人材の育成と地域産業への貢献が期待される。

卓球部全国大会へ

８月20日～22日、福島県南相馬スポーツセンターにて平成30年東北学生卓球連盟秋季リーグ戦兼第85回全日本大学総合卓球選手権（個人の部）予選大会が行われ、本学卓球部は男子団体１部リーグで３位に入賞した。また、第85回全日本大学総合卓球選手権（個人の部）予選大会では、男子ダブルスの部で土木建築工学科４年本田一祥さん（福島・帝京安積高）と電気電子工学科４年差波維さん（八戸工高）の組が全国大会出場権を獲得、男子シングルスの部では、本田一祥さん、差波維さん、電気電子工学科３年上野武蔵さん（六ヶ所高）の３名が全国大会出場権を獲得した。第85回全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）は10月25日～28日、兵庫県尼崎市で開催される。

文化会主催

彩才祭

11月10日(土)・11日(日)
八戸ショッピングセンターラピア
2Fラピアホールにて
入場無料

2018ワールド・ソーラーカー・ラリー参戦

土木建築工学科の佐々木幹夫教授率いる本学ソーラーカーチームが、８月８日～10日、秋田県南秋田郡の大潟村で開催された「2018ワールド・ソーラーカー・ラリー」に出場した。この大会は、クラス毎に１周25kmの専用コースを３日間約25時間かけて走行し、その周回数を競う耐久レースである。今回は葛西美琴さん（中里高）を始めとした新メンバー５名で、ドライバーを交代しながら挑んだ。数回の車両トラブルはあったものの、ソーラーカー部門チャレンジャークラス第３位入賞を果たし、併せて古河林業賞特別賞を受賞した。

野田研究室　EV エコラン in 菅生に参加

８月11日・12日、宮城県菅生サーキットで開催された電気自動車エコラン競技会に、機械工学科野田研究室の李沢郁弥さん（八戸工大一高）、坂本圭也さん（八戸学院光星高）、玉田晃大さん（弘前工高）が参加した。この大会は、４個の電池で２時間以内に走った距離を競うもので、昨年は NDL-2nd が大学部門で優勝。今年は回生エネルギーを電池に戻す回路の NDL-1st で参加した。前日の練習走行は快調で期待を持てたが、スタート時のトラブルで30分のロス。数々のトラブルに見舞われながらも、大学部門では３位入賞となった。

※回生：モーターが発電機となって電力を発生すること

＝学チャレ進行中＝
硬式野球部、山田町で子ども野球教室

私たち八戸工業大学硬式野球部は、７月８日に、学生チャレンジプロジェクトの一環として岩手県沿岸地域の山田町で、小中学生を対象にした野球教室を行った。昨年度も震災復興支援を目的に実施しようと試みたが、悪天候のため実施することができなかった。今年こそ実施したいと、部員ら総勢42名で山田町を訪れた。

実施前日、山田町長をはじめ大勢の町民の方々が交流会を開いてくださり、町の復興推進に我々が期待されていることを知った。この野球教室を通して、山田町の子どもたちや、山田町を少しでも元気づけたいと強く思った。

当日は天候に恵まれ、山田町立豊間根中学校野球部を始めとする３つのスポーツ少年団から計41名が参加した。守備位置ごとに分かれ、アップ、キャッチボールを行い、ノックで手本を見せたり、部員が守備につきバッティングを受けたりと、３時間の野球教室はあっという間に終了した。初めて経験する野球教室に、小中学生にきちんと教えられるか不安でいっぱいの部員だったが、実際に始まるとみんなの顔つきは瞬時に変わり、写真を撮っている私も自然と笑顔になった。この野球教室を実施して良かったと思った。

このプロジェクトでは、私たちを歓迎して下さる方々がたくさんいて、その方々のおかげで野球教室が実施でき、多くの人を笑顔にすることができた。この喜びを胸に、恵まれた環境、関わっている方への感謝を忘れずに、今後も部活動に取り組んでいきたい。

野球部主務　**浅沼　美宥**（創生デザイン学科２年／岩手・盛岡商業高）

学生ボランティア活躍、in 科学の祭典

８月11日・12日、「青少年のための科学の祭典2018」八戸大会が八戸市視聴覚センター児童科学館をメイン会場に開催された。本学からは、学生、教職員やOBなど10チーム以上が、科学の楽しさや実験のおもしろさを子どもや来場者に伝えたいと毎年参加している。

学生チャレンジプロジェクトに参加中の“ぐっ JOB2018”は、エネルギーの流れを可視化しようと、手回し発電モーターを使いジオラマの中でミニチュア電車を走らせる体験を行った。新聞紙とセロテープだけで作ったエアドームを扇風機の風で膨らませ中に入る体験では、ドームの中では風を感じず、扇風機を止めるとドームがしぼむという気圧差を体感する実験に、来場者は釘付けとなっていた。

八戸工高生ミニオープンキャンパス

７月24日、本学にて八戸工業高校１年生対象のミニオープンキャンパスが行われた。この企画は同校と本学との連携協定に基づき、昨年に続いての実施である。約50名の参加者はそれぞれ興味のある学科の見学や、模擬講義を体験した。システム情報工学科でのバーチャル・リアリティー（以下、VR）ゲーム開発入門では、VR の仕組みを学び、装置を付けて実際に体験をした。生徒たちはいつもと違う環境に驚きの声をあげ、体験を楽しんでいた。講義では熱心に耳を傾ける生徒もみられ、積極的に質問する姿から工学や科学への関心が高いことが見受けられた。また、八戸工高出身の在学生による、学生生活に関するプレゼンテーションが行われると、生徒たちは興味深げに聞いていた。大学への理解を深めるよい機会になれば幸いである。

安藤昌益資料館ガイド英訳サポート

インバウンド対応に向け、安藤昌益資料館（市内八日町）の館内ガイドが使用する和文原稿の英訳化が実現した。資料館から相談を受けた本学岩見一郎教授が、翻訳作業経験のある創生デザイン学科３年寺井隆太朗さん（八戸東高（写真左））に依頼したものである。完成した英訳ガイドが資料館に届けられると、早速訪れた外国人観光客のガイドに使用された。ガイドの久保沢陸奥子さん（写真右）は「以前は外国人客が来ると不安でしたが、翻訳文があるおかげで気持ちにゆとりが出来ました」と語った。地域社会の国際化に向けた小さな連携だが、学生が地域の歴史・文化に改めて目を向ける好機となった。

国際交流フェスタ in はちのへ
国際交流活動に参加

９月９日、八戸ポータルミュージアムはっちにて「第８回八戸国際交流フェスタ in はちのへ」が開催され、創生デザイン学科の学生がパネル展示や活動紹介のステージ発表を行った。本学の国際交流は、連携協定を結んでいる海外の大学との学術交流、教員・学生による国際会議での研究発表、海外語学研修、本学に学生を招いた異文化交流等、多岐にわたる。パネル制作では本学国際化ワーキンググループが中心となって情報収集・整理にあたり、学生がデザインを担当した。

アジア原子力研修生、中国より来学

９月６日、平成30年度文部科学省「原子力研究交流制度」のアジア研修生として中国から Mr.Hu Mingqiang（胡明強）さん（写真右から３番目）が来学した。胡さんは中国環境保護部東方事務所原子力施設監督部に所属しており、原子力についての知見を広げるため、本学地域産業総合研究所（四竈樹男所長）で石山俊彦教授の指導の下、11月15日までの２か月半の間、青森県を始め東北各地の施設を訪問するなど研修を行う予定である。

サークル紹介

ドローン研究会

ドローン研究会は設立２年目の新しい研究会です。ドローンで空撮をしたいという思いから立ち上げ、現在のメンバーは１、２年生計６人です。設立当初、私たちはドローンに関して全くの初心者でした。何もわからない状態からのスタートでしたが、教職員や岡ラジコンショップ様、ITH 合同会社様に沢山のご支援をいただき、現在に至っています。

研究会では、毎週集まり体育館や研究室で操縦の練習をし、法規の学習にも取り組んでいます。昨年はキャンパスの空撮動画制作に挑戦しました。今年も学生チャレンジプロジェクトに採択され、ドローンのバッテリーを購入してもらいました。長時間の飛行が可能になり、さらに活動の幅が広がりました。

学園祭では飛行体験、シミュレータなどの展示も多くの方に大好評でした。今後も、みなさんに興味を持っていただけるような活動をしていきます。

Twitter：@HIT_drone

部長　**落合　佳祐**（システム情報工学科２年／八戸工大二高）

階上町との連携協定締結

９月５日、本学と階上町（浜谷豊美町長）は、連携協定を結んだ。階上町は本学キャンパスと隣接しており、学生の下宿も多い。また、大学関係者が町の委員として参画したり、学生による施設ロゴデザインの制作、地元生産者と学生が研究や商品開発でコラボレーションするなどすでに様々な形で関わってきている。この日、地域が抱える課題の解決、老朽化するインフラ対策、観光・産業振興への学生の協力など、相互に協力し取り組む約束を交わした。

～復興まちづくり、防災減災対策推進へ～
東北大学災害科学国際研究所と協定締結

７月31日、本学と東北大学災害科学国際研究所（今村文彦所長）は、復興まちづくりや防災・減災対策を効果的、実践的に進めるにあたり学術・研究面での交流を促進し、地域に貢献することを目的に防災と減災に係る学術・研究交流協定を締結した。これまでも教員間で共同研究が行われてきたが、更に進め発展させていこうと、両者の思いが一致してのものである。

2011年東日本大震災で、東北は甚大な被害を受けた。本学は震災後ただちに、防災と復興の知の拠点となる「防災技術社会システム研究センター」（現インフラ・防災技術社会システム研究センター）を設立。同年、東北大学でも人文社会科学系と理工医学系の垣根を越えて、減災に係る様々な研究と実践的な取り組みを推進しようと研究所を開設した。

この日、本学にて協定が結ばれ、今村文彦所長による「東北大学災害科学国際研究所の取り組み」と長谷川学長による「インフラ・防災技術社会システム研究センターの取り組み」と題した記念講演会が開催された。

～災害に備える～
EV事故車両プログラム開発へ

ハイブリッドカーや電気自動車駆動用モーターのバッテリは、100V 以上の電圧を使用している。通常の整備作業であれば、自動車メーカーが発行する整備マニュアルの通りに電力を遮断することで、安全に作業を行うことができる。しかし、水没を含めた事故車両において、整備マニュアル通りのシャットダウン作業ができるとは限らない。また、メーカーや車種によってその作業方法は大きく異なる。

そこで私は、事故等イレギュラーな場面においても、ハイブリッドカーや電気自動車の電力を、安全・迅速にシャットダウンするプログラムを構築した。事故の際は、車両を切断し要救助者の救出作業をすることもあり、安全に電力をシャットダウンする技術を習得することは、救出現場において必須であると考える。

７月30日、岩手県内の消防署からの依頼で、このプログラムの講習を実施した。午前は、座学を中心に電気の危険性等について講義を行い、午後からはハイブリッドカーを使った実技を行った。受講者達から多くの質問や相談があり、現場の緊張感が伝わってきた。八戸消防本部からも、講習の年内実施を依頼されている。さらにブラシュアップしたプログラムで臨みたいと思う。

浅川　拓克（機械工学科　講師）

十勝沖地震から50年、シンポジウム開催

1968年５月16日に十勝沖地震が発生して50年が経つ。これを節目に、８月25日、パネリスト４名を迎え市内ホテルで―過去を見つめこれからを考える―としてシンポジウム（八戸工業大学インフラ・防災技術社会システム研究センター：主管）が開催された。

青森県南部地域は幾多の自然災害に見舞われては復興を繰り返し、防災対策強化に取り組んでいる。このフォーラムでは、1968年十勝沖地震と1994年三陸はるか沖地震の２つの地震について、被害を受けた建物、地域、インフラについて調査研究報告が行われ、地震被害を最小に抑えるには、市民一人ひとりの防災力の向上が必要である事などが語られた。

全学SD研修会開催

７月25日、第２回 SD 研修会（学校法人八戸工業大学教職員研修会）が開催された。

少子化と人口減少に伴い、全国的に私立学校を取り巻く環境は年々厳しさを増していることから、本法人では運営・組織体制等検討委員会を中心に財務分析と経営改善について検討が行われている。今回は、若手事務職員を中心としたワーキンググループが作成した財務分析をもとに研修会を行った。

保護者懇談会開催

９月１日～９日にかけて、八戸市、弘前市、青森市、盛岡市、秋田市、仙台市の６会場で保護者懇談会が開催された。個人面談では学科の教員から修学状況や学生生活等について説明があり、相談コーナーも設けられた。

八戸会場（本学）では個人面談に加え、青森県若年者就職支援センタージョブカフェあおもりの中﨑良次氏を迎え就職講演会「いまどきの就職活動」が実施された。講演会には100名を超える保護者の出席があり、熱心に耳を傾ける姿から、就職に対する関心の高さがうかがえた。

大学見学ありがとうございます

七戸高校１学年
八戸工業高校１学年
七百中学校２学年
八戸工業大学第二高校１学年
盛岡中央高校２学年
弘前工業高校１学年
八戸工業大学第一高校保護者
六戸中学校２学年
大湊高校１学年
田子高校２学年
五所川原工業高校１学年

※見学会は随時受け付けております。お気軽にお問い合わせください。
お問い合わせ先：0178－25－8000（入試課直通）

「八戸工業大学研究ブランディング事業活動支援金」
― ご寄付のお願い ―

平成29年度、本学は文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に採択され、地域の「安全・安心・快適な暮らしの創造」と「農林水産業・工業・観光業など産業・雇用の活性化」に貢献することを目的として、インフラ・地域づくりに関連する人材の育成と研究成果の社会実装も含めた総合的インフラ研究拠点の構築を目指し教育と研究に取り組んでおります。

この目的を達成し多くの成果を生み出すためには、地域の皆様からのご意見やご協力が必要です。主旨をご理解いただきご支援下さいますようよろしくお願いいたします。詳しくは、下記 HP をご覧ください。

https://www.hi-tech.ac.jp/branding/index.html#home

進学相談会日程

開催日	開催地	開催時間	会　場
11月６日(火)	青森市	15:00～18:00	リンクステーションホール青森
11月６日(火)	弘前市	14:00～18:00	アートホテル弘前シティ
11月６日(火)	むつ市	14:00～18:00	むつ来さまい館
11月７日(水)	八戸市	15:00～18:00	八戸プラザアーバンホール
11月８日(木)	青森市	14:00～18:00	県総合社会教育センター
11月13日(火)	八戸市	14:00～18:00	ユートリー
11月21日(水)	秋田市	15:00～18:00	アルヴェ
11月28日(水)	盛岡市	15:00～18:00	アイーナ

2019年度入学試験日程

入試区分	クール	エントリーカード受付期間(必着)	面　談　日
ＡＯ入学試験	第２クール	11月15日(木)～11月22日(木)	12月１日(土)
	第３クール	１月28日(月)～２月１日(金)	２月８日(金)
	第４クール	３月１日(金)～３月８日(金)	３月15日(金)

入　試　区　分		願書受付期間(必着)	試　験　日
推薦入学試験	指定校制	11月１日(木)～11月８日(木)	11月17日(土)
	公募制	11月26日(月)～12月13日(木)	12月19日(水)
一般入学試験	前期	１月４日(金)～１月25日(金)	２月１日(金)
	後期	３月１日(金)～３月11日(月)	３月18日(月)
大学入試センター試験利用入学試験	前期	１月４日(金)～１月28日(月)	2019年 1月19日(土)・1月20日(日)の大学入試センター試験
	中期	２月１日(金)～２月15日(金)	
	後期	３月１日(金)～３月21日(木)	

主な日程

11月10日(土)・11日(日)	「彩才祭」inラピア
17日(土)	推薦入試(指定校制)
12月１日(土)	AO入試第２クール
19日(水)	推薦入試(公募制)
22日(土)	(月)振替授業
23日(日)～１月８日(火)	冬季休業
28日(金)～１月３日(木)	年末年始窓口休業
１月19日(土)・20日(日)	大学入試センター試験
24日(木)～30日(水)	後期定期試験期間
29日(火)	開学記念日

えがおキラキラ ゆめいっぱい!!

みて!
ぞうさんだよ

ジャングルジムの
うえまでのぼると
きもちい〜い

ペチュニアのおはなで
いろみずをつくったよ

はい、
ひょっこりはん!

おかあさん、
きたろうのおべんとうを
つくってくれてありがとう!

きょうはまちにまった
えんそくだよ、やったー!

こむぎこねんど、
おつきさまみたい!

うわぁ、のびるのびる〜

あみこみって
むずかしいね!

〜サッカー教室〜

ぜったいにまけないぞ!!

バケツに
たくさんいれるぞ!

第60回 体育祭

８月31日、第60回体育祭が開催された。前日は、台風の影響により校内での練習となったが、平成最後の体育祭当日は練習不足を吹き飛ばすように生徒一人ひとりが、気迫みなぎるプレーで熱戦を繰り広げ、各種目に一喜一憂し競技が進んだ。前日の強い雨も止み曇り空の中ではあったが、多くの御来賓の出席と観戦者のもと一勝負ごとに歓喜や笑いが満ち溢れた。今年も青軍と赤軍との接戦になり青軍が競り勝ち、２年連続の優勝、女子学年対抗は３学年優勝となった。

体験入学

８月17日から20日まで、19日を除く３日間、本校で中学生の体験入学が行われた。

県内外から700名を超える申し込みがあり、気候にも恵まれ涼しい中での実施であった。

体験コースは、Ａコース（普通・情報･電子通信･電気）と、Ｂコース（普通・機械・建築・土木）の２つがあり、申込時にどちらかを選択してもらった。

体験内容は、普通科は４つのコースの説明と科の取り組みのプログラムの紹介をし、工業科では、電気コースは「エジソン電球実験」､情報コースは「プログラミング入門」(写真左)、電子通信コースは「センサーの仕組み」、機械コースは「１日エンジニア体験」、土木コースは「ミニテトラポットトロウソクの制作」、建築コースは「紙で耐震構造の家の制作」(写真右) などを行った。

どのコースも、本校生徒が実演や楽しい説明を入れ、笑いで盛り上がる場面も見られた。また、今年も保護者を対象に普通科のコース説明会が並行して開催された。中学生は、どの体験にも興味を示し、楽しかったと笑顔で本校を後にした。

全国高等学校総合体育大会

2018彩る感動 東海総体

「 翔べ　誰よりも高く　東海の空へ 」

平成30年度全国高等学校総合体育大会には水泳部(男女)、剣道部、レスリング部、ソフトテニス部(男女)、ボクシング部、自転車競技部が青森県代表として出場。三重県津市のメッセウイングみえで行われたレスリング競技では、71kgで西舘黎君（進学コース３年／白山台中)、50kg太田優香さん（建築コース３年／倉石中／写真右)、68kg齊藤美姫さん（普通科１年／十和田東中）の３名がフリースタイルで５位入賞を果たした。

(写真提供／デーリー東北新聞社)

部活動体験・見学会

８月19日、今年度第１回目の部活動体験見学会が開催された。今回は各中学校から256名の生徒と多数の保護者の参加があり、本校の取り組みに対する関心の高さが感じられた。参加した中学生からは、「元気がよく明るい雰囲気だった」､「以前から、環境や指導者に恵まれている場所で体験したかった」などの感想があり、体験終了の際は皆満足そうな表情を浮かべていた。

命の授業

７月10日、腰塚勇人氏を講師にお招きして「命の授業～ドリー夢メーカーと今を生きる～」というタイトルで講演会を開催した。腰塚氏はスキーで大事故に遭い、全身マヒの体になり一度は人生を諦めかけた。しかし周囲の人の励ましにより、その後懸命のリハビリに取り組み社会復帰できるまでに回復した。同時に、事故をきっかけに自身の人生観が大きく変化した。人は支えられ、助けられ今を生かされ生きている。誰も決して一人じゃない。命も人生も自分だけのものじゃない。人生は楽しいとき、幸せなときばかりじゃない。辛いときだって、苦しく不安なときだってある。「助けて」って言っていい。その言葉を待っている人は必ずいる。力になってくれるドリー夢メーカーは必ずいる。そして自らの体験で改めて感じた「命の大切さ、生きていることの素晴らしさ」を熱く語っていただいた。最後に「５つの誓い」というメッセージを伝えてくれた。

「口」は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。
「耳」は人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。
「目」は人のよいところを見るために使おう。
「手足」は人を助けるために使おう。
「心」は人の痛みがわかるために使おう。

今回の講演を通して生徒は『他人に対する思いやりの心をもって、友達と寄り添いながら高校生活を送っていきたい』と感想を述べていた。また、普段の生活の中で忘れかけている幸せについて再認識する機会にもなった。

KDDIスマホ・ケータイ安全教室

８月29日、１・２年生対象にスマホ・ケータイ安全教室が開催された。実際に起こった事例を挙げてネット上でトラブルになりやすい事柄を紹介し、注意を促した。身近な道具となったスマートフォンであるだけに、生徒は真剣な態度で講話に耳を傾けていた。

〈生徒の感想〉

スマホの危険性を改めて、感じることができました。また、スマホをいじりすぎると依存性になってしまったり、掲示板で知らない人とつながってしまうとトラブルが起こってしまったりして、将来に汚点を残してしまうので、日頃から正しい使い方でスマホを使っていきたいと思います。自分には、スマホに対してのルールなどがないので、親と相談をして、ルールを決めていきたいと思います。　（１年工業科）

ネット上では、人は誰にでもなりすますことができます。友達の個人情報など、誰にでも言うものではないと思いました。今日は、「流されないこと」、「時と状況」をしっかり理解することの大切さを知りました。

友達に流されて、悪口を言うことは最低なことです。私はそういう人間にならないようにしたいです。そして、今はどういう場面なのか、何をするべきなのか、考えて、行動できるようにします。スマホの使い方を理解して使用していきたいと思いました。　（２年普通科）

ボランティア活動

■８月２日、八戸市庁前市民広場で開催された「第41回おまつり広場」に放送部員２名がボランティアで、ステージの司会進行を務めた。プロの司会者とともにステージの出演者を紹介するなど、放送の楽しさを実感し、プロのアナウンス技術を間近で学ぶことができた。さらに、地域の方々に日頃の放送活動の成果を披露する良い機会となった。

■８月３日、市内中心街にて放送部員２名がボランティアで、八戸三社大祭の行列や山車解説のアナウンスを行った。お還りの山車運行に合わせ、ライブで山車の見どころや受賞などを紹介し、全てのアナウンスが終了すると、その場にいた観光客の方々から盛大な拍手と労いの言葉をいただいた。

全国高等学校総合文化祭参加

美術工芸部門（8月7日・8日）

8月7日・8日、長野県上田市で開催された第42回全国高総文祭美術工芸部門に、本校美術コース3年加賀明日花さん（三本木中）が参加した。加賀さんは青森県代表の7名に選出され、本校の全国高総文の出場は12年連続となる。講演会及び講評会は、漫画家の荒木飛呂彦氏を講師に招いて行われた。交流会では生徒達が対話しながら鑑賞会とワークショップを行い、活発なものとなった。加賀さんは「レベルが高い作品や、様々な取り組みを見て大きな刺激を受けました」と、充実感を得た様子であった。

テニス部・バドミントン部 優勝

男子硬式テニスダブルスで県チャンピオンに

9月15～17日に行われた県秋季新人テニス選手権大会で、共にカレッジコース2年の溝口遼河君（白銀南中）と千葉栞太君（下長中）のペアが優勝を果たした。2人は高校入学後に硬式テニスを始めた。試合については「特に準決勝が接戦で、競り勝てたことが嬉しかった」としながらも「力強いストローク」（溝口君）、「サーブの精度と積極的な攻め」（千葉君）を自分の課題として挙げ、気持ちは次のステップへ向かっていた。

男子バドミントン三八地区大会で団体優勝

9月8日に行われた三八地区秋季バドミントンリーグ戦において男子バドミントン部が団体優勝を果たした。キャプテンの古川諒君（カレッジコース2年／八戸第三中）は「チームワークの良さと、全員が同じ目標を持って試合に臨んだことが勝利につながったと思う。ピンチで諦めない粘り強さやレシーブを強化し、個人では県ベスト4を目指したい」と話した。

読書合宿からビブリオバトルへ

8月6日・7日、本校で読書合宿が行われた。本校は平成30年度子供の読書活動優秀実践校として表彰されており、読書合宿もその受賞に貢献した行事である。今年度は中心街の八戸ブックセンターを訪問し、書店員によるワークショップに参加した。書店に並ぶ本の表紙やタイトルを眺め、気になった一冊を選んで順にその理由を発表する形式で、生徒が本棚からピックアップした本にはそれぞれの個性が光っていた。本校へ戻った後は、ビブリオバトルや読書会、映画鑑賞などを行い、参加した生徒は読書を通じて交流を深める楽しさを味わった。

同月26日には仙台市の東北学院大学で開催された「全国高等学校ビブリオバトル2018」に、石橋奈央子さん（カレッジコース1年／小中野中）が学校代表として参加した。残念ながら予選突破はならなかったが、聴衆からは「とても読みたくなった。今日すぐに書店で買って帰りたい」という嬉しい言葉もいただき、石橋さんは「自分の思いが伝わって嬉しい」と喜び、次回に挑戦する意欲を見せた。

八戸工大ＳＳＰ

８月２日・３日、「HIT－SSP（八戸工業大学サマー・サイエンス・プログラム）」が開催された。今年度のＳＳＰは各学科より11講座が開講され、１年生のスーパーカレッジクラスと２年生のアクティブカレッジクラス理系の生徒66名がそれぞれの講座に分かれて参加した。参加した生徒達は、普段の高校生活では学ぶことのできない専門的知識を得たり、先端技術に触れたりすることで、充実したプログラムに手応えを感じていたようだ。

インターンシップ

７月30日から８月６日にかけ、情報ビジネスコースの２年生が職業体験を行った。今年度も、道の駅はしかみ、洋服の青山、ネッツトヨタみちのく、第一ホーム、さめ保育園など計14企業からの協力があった。生徒たちは２日間から３日間にわたり、各企業でさまざまな経験を得た。「はじめは緊張と不安もあったが、行ってみて勉強になることがたくさんあった」と満足げに話していた。また、「将来の職業選択に密接に関わる時間は、楽しくて短く感じた」と語る生徒もいた。

鮫地区ボランティア

８月10日、三陸復興国立公園の蕪島、葦毛崎展望台、種差海岸の３か所で本校生徒130名がボランティアでガイドを行った。今年度で６年目となる鮫地区観光ボランティアガイドは、八戸南高校の閉校に伴い本校が引き継いだ取り組みである。県内外を問わず訪れた多くの観光客に対して、自作のスケッチブックを手に地域の歴史や文化などについて観光案内をした。地域の文化や歴史に触れ、多くの人たちとふれあい、貴重な経験と思い出ができた一日であった。

美術コースの活動

美術セミナー 青森市開催

９月29日、青森市で中学生美術セミナーを開催した。今年は青森市内をはじめ津軽地方からの参加もあり、参加者は計48名で過去最多となった。昨年アクリル画で参加した生徒が今年はデッサン画を学ぶなど描きたい画材を各々選択し積極的に学んでいた。初めて参加した生徒は、慣れない表現に戸惑いながらも午後には描き方を覚えて完成に向けて熱心に取り組んでいた。講評会では真剣に耳を傾ける様子があり、48枚の完成度の高い作品から様々なことを学んだようである。

美術セミナー 八戸市開催

10月13日、八戸市で中学生美術セミナーを開催した。市内外から中学１年生から３年生まで計20名が参加し、静物デッサンとアクリル画を学んだ。他校の生徒、また他学年と一緒に学べるのが新鮮で良い機会になっている。デモンストレーターを務めた高校生の制作過程を熱心に見つめる姿や、その高校生に描き方の質問をする姿が印象的であった。

情報ビジネスコースの活動

南部せんべい商品開発

情報ビジネスコースの２年生が、南部せんべいを使ったオリジナルスイーツを開発した。小さく割ったせんべいを使用したカップ入りチーズケーキの「クラッカーズチーズケーキ」と、丸いチョコレートケーキの外側にせんべいをまぶした「チョコクラッシュボール」の２種類である。地域活性のための活動を行っている「まちぐみ」の協力を得て、文化祭で販売を行った。創ったスイーツは、来場者から注目を集め、完売した。新製品開発のために研究と改良を重ねた生徒達は、「不安もあったが完売して嬉しかった」と満足げに語った。

清 掃 活 動

6月16日、情報ビジネスコース恒例の清掃奉仕活動が行われた。蕪島、館鼻岸壁、そして魚市場周辺の３か所の清掃を行い、八戸市クリーンパートナーの一員として環境衛生と社会奉仕の大切さを学んだ。茂みにはたばこの吸い殻やペットボトルなど、波打ち際には漂着したと思われるゴミが散乱していた。それらのゴミを拾うことは、生徒たちが環境美化やマナーについて考える機会となった。

なかよしさい

「じゃんけんれっしゃ、しゅっしゅっしゅ〜!!」

～年長組の作品～

「ようこそ、スーパーマリオワールドへ」

「よし、おおきいシャボンだまをつくるぞ」

「あきかんつみに、ちょうせんだ!!」

「みずヨーヨーつり、そーっとね」

なかよし祭に向け、すべての人々が楽しめるように教職員はもちろんのこと役員の方々も準備を進めてきた。作品は学年ごと一つの部屋に展示された。子どもたちが日頃から取り組んできた絵やデザイン画、立体の製作物など、部屋いっぱいにテーマに合わせた飾りつけがされた。園内では綿あめや豚汁、お面や輪投げ、くじ引き、園庭ではしゃぼん玉や水ヨーヨー、らくがき、スタンプラリーなどたくさんのコーナーが充実し、終了まで時間いっぱい楽しむ姿が見られた。その中で、「豚汁なつかしい」と喜ぶ声が聞かれた。大人になってもなつかしむなかよし祭であって欲しい。

卒園児からのメッセージ

Message

思い出いっぱいさくら幼稚園

さくら幼稚園を卒園して、もう、13年が経ちました。あっという間に今年で20歳になります。

私は、外で遊ぶ事が大好きでした。ブランコやシーソー、友達と走り回ったり、水遊びをしたりと、ここには書ききれないほどのたくさんの思い出があります。そんなかけがえのない幼稚園時代を、このさくら幼稚園で過ごすことができて、私はとても幸せに思います。

今、私は大学２年生です。あまり得意でない勉強と大好きなラグビーに打ち込む日々が続いています。幼稚園時代に動くことの楽しさを学ぶ事ができ、また、外でたくさん遊んでいたおかげもあり、ほとんど怪我もなく、ラグビーに打ち込むことが出来ています。

さくら幼稚園から教わったどんな時も一生懸命頑張る事、友達を大切にする事、そして感謝の気持ちを持つ事を忘れずに、成長し続ける人間になりたいと思います。

八戸学院大学２年生
鈴木　佳寿音さん
（平成17年３月卒）

ようちえんってこんなところ

年長　サマーフェスタ

「ねぇ、みて！
はなび、とってもきれいだね♪」

年長　じゃが芋掘り

「おおきい　じゃがいも　みつけた!」

海浜保育

「わーい、うみについたぞー!!」

園児募集

満3歳児
3 歳 児
4 歳 児
5 歳 児
願書受付（定員になり次第締切）
11月1日より

○完全給食
○通園バスあり
○預かり保育あり

とらんぽりん
～ある日の保育日誌～

満３歳いちご組
8月28日（火）

なかよくままごとで遊んでいたAちゃんとB君。人形を赤ちゃんに見立てて「ママになる」とおんぶ紐でおんぶしたり、「ピクニック行くよ」「ここはお家だよ」と、遊ぶ二人の中ではストーリーが出来上がっているようだった。Aちゃん主導ではあったが、B君は、聞いたり受け流したりバランスよく受け答えして遊んでいた。物を取り合ったりすることも少なくなり、誘い合って遊ぶなど友達とのやりとりが上手になったと感じる。友達と一緒が楽しくて仕方ないようだ。

「アイスクリーム、はい、どうぞ♪」

年少組　8月30日（木）

雨のため、午後はホールで遊んだ。ひとりの子がフラフープで遊んでいたが、いつの間にか一人増え、そのフラフープの中に入っていた。電車が出来ることを教えると、早速走りはじめ楽しそうにしていた。すると、ひとりの子が「つなげればいいね」とフラフープにつながった。そこから何人かがつながり、別のグループでも同じようにつながって遊んでいた。ただ、それぞれが一番になりたがり、あちらこちらにと進むので上手に遊べるように指導していかなければと思う。

年中組　8月24日（金）

すいか割りをすることを伝えると、素早く支度をし外へ出た子どもたち。目隠しをした友達に「前、前、横だよ」と周りの子どもたちが教えていたが、いざ自分が目隠しされるとふらふらと思うように動けずにいた。その様子が面白かったようで喜んでいた。すいかを切ってもらいあっという間に食べきった後は水遊びをし、汗を流してさっぱり。夏ならではの行事を満喫した子どもたちから「楽しかったね」の声が聞こえた。

～秋の遠足～
「ビュンビュンバイク、たのしいな!!」

年長組　9月3日（月）

「もっと深く掘ったら宝があるかもしれない」「こっちもっと掘るね」「じゃあ○○君、水よろしくね」などと自然に役割を決めながら砂遊びを楽しんでいた先週。今日は、前回に引き続き穴を掘る子もいたが、穴の横に砂山とトンネルを作るグループも出てきた。トンネルが繋がると大興奮で「ここから水を流せばこっちに水が出るんじゃない？」といろいろな方法を試していた。はじめは一人で遊んでいたのがグループになり、どんどん遊びが広がっていくのが感じられた。

科学の甲子園ジュニア県大会準優勝

８月４日、青森県総合学校教育センターで行われた、平成30年度第６回「科学の甲子園ジュニア」青森県大会に本校１年生６名が初めて挑戦した。この大会は、中学校１年・２年生が対象の大会で、理科、数学など複数分野における筆記競技と実技競技に３人一組のチームで取り組むものである。上位２チームは、12月７日～９日につくば市で行われる全国大会に出場する。

本校から参加した、二高附属中Ａチームは、最後に行われた実技競技において、参加19チームトップの成績をあげ、総合成績で二位入賞となり、全国大会出場権を得た。

第２回校外学習

９月28日、青森市にて、青森県議会場と八甲田丸の見学を行なった。県議会では本会議一般質疑を見学、議長を中心とする議会運営を生徒たちは肌で感じていたようだ。次に八甲田丸を見学、多くの生徒が船の構造に大変興味を持った。昼食後、県議会に戻り、二高 OB の熊谷雄一議長を表敬訪問した。一般質疑を見学して疑問に思ったことや議長の仕事について質問をした。いきなりの質問にもかかわらず、熊谷議長は快く答えられた。生徒たちは大変喜び、その後のアンケートでも皆一様に「とても良い体験だった」と述べていた。

附属中祭

初めての附属中祭が、二高祭とともに開催された。中学生にとって、全てが初めての経験である。この日、生徒たちはクラス展示を行ったほか、八戸せんべい汁研究所の協力により模擬店ブースを使い、せんべい汁を提供した。グループごとに調理･会計･片付けをローテーションで担当し、販売も行なった。初日はぎこちない接客であったが、最終日には自ら宣伝を行い、丁寧な接客を心がけ、無事完売となった。生徒たちは人とのコミュニケーションは自分たちの関わり方次第で深まるということを学んでいた。

理事会

学校法人八戸工業大学は、下記のとおり理事会を開催して各案件について審議を行い、それぞれ原案通りに承認した。

◇7月20日　理事会

・八戸工業大学「中長期目標・基本計画　HIT Grand Design55」に関する件
・学校法人八戸工業大学「経営改善計画（改定）」に関する件
・「八戸工業大学大学院特待生規程」制定に関する件

◇9月21日　理事会

・運営・組織体制等検討委員会報告

◇10月19日　理事会

・「学校法人八戸工業大学事務組織規程」改正に関する件
・学校法人八戸工業大学「平成30年度支出経費抑制等計画」に関する件

【お見舞い】

この度の、平成30年台風21号・24号・25号および北海道胆振東部地震で被害を受けた皆様とご家族・関係の方々に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

学校法人八戸工業大学　理事長　柳谷利通

蒼穹
Hachinohe Institute of Technology Press SOUKYU　2018（平成30年）秋号　No.134
［発行］学校法人八戸工業大学　http://www.hi-tech.aomori.jp　〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開88-1　ダイヤルイン案内（0178）25-3111　FAX（0178）25-2769
八戸工業大学　http://www.hi-tech.ac.jp　八戸工大一高　http://www.kodai1.ed.jp　八戸工大二高　http://www.kodai2-h.ed.jp　八戸工大二高附属中学校　http://fuchu.kodai2-h.ed.jp　さくら幼稚園　https://sakura.hi-tech.aomori.jp